

# 佐賀空港への自衛隊オスプレイ基地建設と阻止闘争

豊島耕一 オスプレイストップ! 9条実施アクション佐賀・代表

常備軍そのものが先制攻撃の原因となる。

- カント、『永遠平和のために』第三条項から

## 佐賀空港への自衛隊オスプレイ等配備問題の経過

1990年3月	「佐賀空港建設に関する公害防止協定」（佐賀県と8漁協）の覚書付属資料の中で「自衛隊との共用はしない」と明記。「公害防止」とあるが、戦争体験に基づく当時の漁業者の反戦・平和の考えが背景にあることを西日本新聞、2019年5月23日付けの記事が書いている <sup>1</sup> 。
1998年7月	佐賀空港開港
2014年7月	防衛省が佐賀県に対して佐賀空港への自衛隊オスプレイ配備等を要請
2015年1月	佐賀県知事に山口祥義(よしのり)氏
2018年8月	山口知事が配備計画を受け入れ
11月	有明海漁協が公害防止協定の見直しを受け入れ
2023年2月	佐賀市長、防衛省からの要請を受け入れる
5月	地権者でつくる南川副管理運営協議会が臨時総会を開催し、土地売却を決定
6月	防衛省が佐賀駐屯地建設工事を着工、 <u>住民・市民の自然発生的な阻止直接行動</u>
7月29日	地権者の裁判を支援する「オスプレイ裁判支援市民の会」設立 (2024年10月現在の会員500名以上)
8月	地権者4人がオスプレイ裁判・仮処分を申し立て
12月	排水対策施設工事のため県が防衛省に県有地を無償貸与
2024年1月	排水対策施設工事が本格化、県有地の土砂を無償提供
2月	県民72人が佐賀県に対し県有地・土砂の無償提供の問題を住民監査請求
3月	仮処分裁判が却下、地権者4人がオスプレイ裁判本訴を提訴
4月	住民監査請求が棄却
5月	県民40人が知事に対し、県有地・土砂無償提供の問題で住民訴訟を提訴
7月	245人の原告が市民原告訴訟を提訴、地権者4人の裁判と併合
12月6日	(予定) オスプレイ裁判・第3回口頭弁論、佐賀地裁

## 工事現場での抗議行動・阻止直動

2024/1/9	有志で、佐賀県公安委員会に対し県警が違法な工事を取り締まるよう「苦情申し出」を実施(警察法79条1項)
1/19	同有志、阻止行動予告の記者会見 <sup>2</sup> 内容：オスプレイの危険性と、配備の二重の違法性の指摘。行動原則は「非暴力と安全」-そのため参加者に「非暴力と安全のための誓約書」への署名を求める-、透明性と説明責任を負うものであること。

<sup>1</sup> ブログで紹介。 <https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2019-05-23>

<sup>2</sup> 記者会見の詳細は1月19日のブログ参照。 <https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2024-01-19>

- 1/25 行動開始に際して佐賀県警本部長に手紙<sup>3</sup>を届ける
- 1/27 「私人による法の執行」として、工事ゲートでのダンプ阻止行動を開始。同日、「オスプレイストップ!9条実施アクション佐賀」を結成

以後、月1〜2回の阻止行動を実施。 2/24, 3/20, 4/13, 5/12, 6/12, 15, 7/12, 8/19, 9/26, 28, 10/13, 10/28  
累計封鎖時間30時間余、参加者の規模は30人から50人。



- 11/13 佐賀県公安委員会に対し再度「苦情申し出」
- 11/18 (予定) 記者会見

### 成果、到達点など

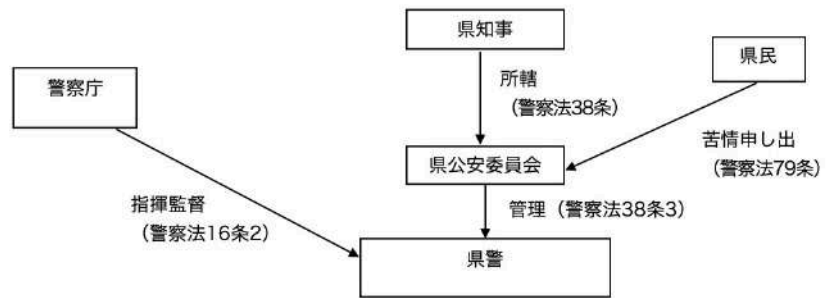
当初、このような直接行動は「佐賀では無理、ここは沖縄ではない、逮捕者が出れば周りが大変」などと言われたが、メディアも繰り返し好意的に取り上げてくれるなど、参加者は大いにエンパワーされている。

これまでのところ警察のあからさまな弾圧はなく（4月の抗議行動の際には、我々に対する妨害者を警察が抑止）、平穏に行われている。今後、規模とゲート封鎖の時間を拡大し、工事に実質的な影響を及ぼせるようにする必要がある。そうすると警察の態度も変わる可能性があるため、それに伴う困難も予想される。

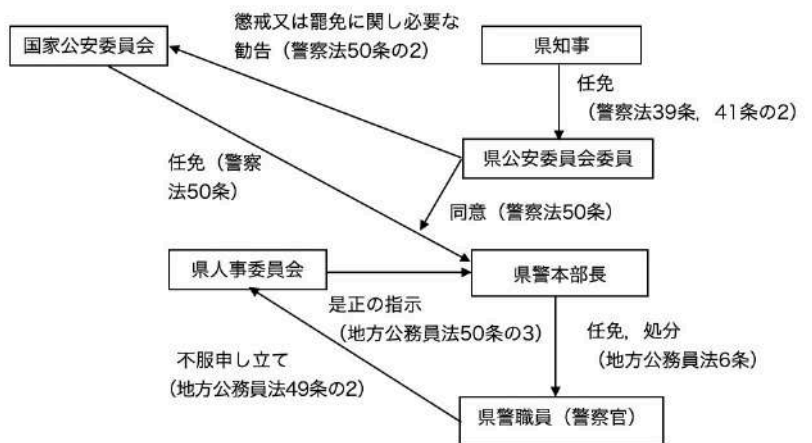
著名人からの支持・支援のメッセージも続々。経済思想家・斎藤幸平さん、反核法律家協会会長・大久保賢一さん、弁護士・馬奈木昭雄さん、英国の平和運動家・アンジー・ゼルターさん、「ガンフヤー」代表・具志堅隆松さん

国 県 県民

支配関係



任免・処分



### 運動圏に依然として強い「逮捕絶対否定」の傾向の問題

12月刊の『わだつみのこえ』原稿の末尾：腐敗した司法とメディアの下では、市民が逮捕を恐れる限り権力は市民を恐れない。その恐れから市民が解放されて初めて民主主義が始まる<sup>4</sup>。そこから、いま恐ろしいスピードで進む「新しい戦前」を押しとどめる力が生まれる。

運動圏でよく言われる「一致点で団結」が、「出る杭は打たれる」になってはいけない。意図的でなくても、「やってる感」を与えるだけの「捕獲装置」<sup>5</sup>にならないことが大事。

<sup>3</sup> 手紙の内容はこちら。 <https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2024-01-25>

<sup>4</sup> 豊島耕一、「『ガラパゴス』状態の日本のデモが暴政継続を許す」、『反戦情報』2021年2月15日号〜同4月15日号 参照

<sup>5</sup> 「週刊金曜日」2017年10月20日、1157号の笹野頼子氏の文参照。ブログで紹介 <https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2017-10-21-2#pred>